



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 宮地エンジニアリンググループ株式会社
 コード番号 3431 URL <http://www.miyaji-eng.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青田 重利

問合せ先責任者 (役職名) 企画・経理部長 (氏名) 遠藤 彰信

TEL 03-5649-0111

四半期報告書提出予定日 2019年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	30,179	25.1	2,398	18.6	2,483	17.7	1,361	0.9
2019年3月期第2四半期	24,126	1.9	2,022	14.5	2,109	15.4	1,373	44.3

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 1,471百万円 (19.4%) 2019年3月期第2四半期 1,824百万円 (1.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	200.02	
2019年3月期第2四半期	201.88	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	57,270	28,994	43.9
2019年3月期	55,631	28,070	43.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 25,137百万円 2019年3月期 24,369百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		60.00	60.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,000	19.1	3,800	12.7	3,900	14.0	2,200	39.0	323.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	6,919,454 株	2019年3月期	6,919,454 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	113,720 株	2019年3月期	113,675 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	6,805,757 株	2019年3月期2Q	6,805,831 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	10
3. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況(連結)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国や欧州の政治動向や中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、通商問題や金融市場の動向などが懸念されるなか、輸出や生産の弱さが続いているものの、政府の各種経済対策の効果から雇用情勢や所得環境の改善が続き、設備投資は緩やかな増加傾向にあり、個人消費は持ち直し、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

公共投資は底堅く推移しているものの、当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業につきましては、今年度の総発注量は端境期となることから減少する見込みであり、当第2四半期連結累計期間の発注量は前年同期比で減少しました。

このような状況下、受注高につきましては、概ね計画通りに推移したものの、前年同期に大型工事の受注があったこともあり、223億24百万円（前年同期比37.4%減）となりました。

売上高につきましては、手持ち工事が順調に進捗したこと、301億79百万円（同25.1%増）となりました。

損益につきましては、堅調に推移した結果、営業利益は23億98百万円（同18.6%増）、経常利益は24億83百万円（同17.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億61百万円（同0.9%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(宮地エンジニアリング)

受注高につきましては、概ね計画通りに推移したものの、前年同期に大型工事の受注があったこともあり、145億17百万円（同28.4%減）となりました。

売上高につきましては、手持ち工事の進捗などにより、193億85百万円（同32.6%増）となりました。

損益につきましては、千葉工場構内ヤードの使用率向上をはじめとする生産の効率化、工事採算性の向上などに取り組んだことにより、営業利益は17億8百万円（同5.3%増）となりました。

(エム・エムブリッジ)

受注高につきましては、概ね計画通りに推移したものの、前年同期に大型工事の受注があったこともあり、78億5百万円（同49.2%減）となりました。

売上高につきましては、手持ち工事の進捗などにより、108億33百万円（同15.6%増）となりました。

損益につきましては、一部工事の設計変更が前倒しで契約となったことに加え、生産の効率化、工事採算性の向上などに取り組んだことにより、営業利益は7億8百万円（同79.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

資産合計は、前連結会計年度末と比較して16億38百万円増加し、572億70百万円となりました。主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が17億50百万円増加したためであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して7億14百万円増加し、282億75百万円となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金が8億77百万円、短期借入金が8億50百万円それぞれ増加し、未成工事受入金が1億60百万円、工事損失引当金が6億50百万円それぞれ減少したためであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して9億23百万円増加し、289億94百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が9億28百万円増加したためであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して8億43百万円増加し、110億64百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況と増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、14億82百万円の資金増加（前年同期は29億3百万円の減少）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益22億53百万円の計上、売上債権の増加17億50百万円、仕入債務の増加10億2百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、9億27百万円の資金減少（前年同期は1億94百万円の減少）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出8億75百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億87百万円の資金増加（前年同期は4億67百万円の減少）となりました。主な要因は、短期借入金の増加8億50百万円、配当金の支払4億4百万円、非支配株主への配当金の支払1億15百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国経済の見通しにつきましては、各種政策の効果によって緩やかな回復が続くことが期待されるものの、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向等に留意が必要であり、先行き不透明感があります。

当業界におきましては、当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業につきましては、今後も一定量の新設橋梁の発注が見込まれるなか、グループが有する豊富な実績・技術力・架設力を最大限活かし、技術提案力、積算精度の更なる向上を図り、情報収集力を高め、総力を挙げて安定的な受注の確保に努め、設計・計画・製作から架設までの総合エンジニアリング力の強化と採算性の更なる向上を図ってまいります。また、高速道路や新幹線などの大規模更新・修繕工事の保全・補修事業、ハイブリッドケソン・浮体構造物・沈埋函などの沿岸構造物事業、シールドトンネル向けの鋼製セグメント事業、有望な製品の多いFRP事業、および建築・土木関連事業などに経営資源を積極的に投入し経営基盤を強化し、併せて、i-Constructionと働き方改革の推進に積極的に取り組み、生産性を向上させ、一段の飛躍を図ってまいります。

また、グループとしての経営管理体制を一層強化し、安定した黒字体質を確固たるものとするよう努め、グループの中核である宮地エンジニアリング株式会社、エム・エムブリッジ株式会社とともに更なる事業発展を図ってまいります。両社は、技術提案力の強化など受注力の向上に努め、また、経済合理性を最大限追求することを基本に、製造部門の生産性向上・生産効率化を図り、資機材の共同購入・活用、技術の相互利用・共同開発、人材交流の推進に取り組んでおりますが、更なるシナジーの創出に努め、グループの企業価値を高めると同時に経営基盤を一層強化してまいります。

当社は、グループの事業規模拡大を睨み、2018年度から2021年度までの4年間で宮地エンジニアリング株式会社の千葉工場に総額50億円程度の設備投資を行い、製造コストの削減、生産性の向上に伴う生産能力増強により競争力の強化を図り、橋梁総合エンジニアリング企業として更に飛躍する経営体制で事業を推進してまいります。

なお、通期の連結業績予想につきましては、下記のとおり、2019年5月14日公表数値を修正しております。

2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	60,000	3,600	3,600	2,200	323.25
今回修正予想 (B)	62,000	3,800	3,900	2,200	323.26
増減額 (B-A)	2,000	200	300	—	—
増減率 (%)	3.3	5.6	8.3	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	52,062	4,350	4,534	3,608	530.16

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	10,221,427	11,064,619
受取手形・完成工事未収入金等	24,999,838	26,750,753
未成工事支出金	502,687	305,569
その他	1,981,035	1,165,435
流動資産合計	37,704,988	39,286,378
固定資産		
有形固定資産		
土地	8,028,192	8,281,909
その他(純額)	3,496,912	3,591,151
有形固定資産合計	11,525,104	11,873,061
無形固定資産	219,162	215,731
投資その他の資産		
投資有価証券	4,937,351	4,696,310
その他	1,292,244	1,245,966
貸倒引当金	△46,890	△46,890
投資その他の資産合計	6,182,705	5,895,387
固定資産合計	17,926,973	17,984,180
資産合計	55,631,962	57,270,558
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	11,490,920	12,368,189
短期借入金	3,850,000	4,700,000
1年内返済予定の長期借入金	300,000	—
未払法人税等	731,115	650,886
未成工事受入金	2,134,687	1,973,975
完成工事補償引当金	592,880	580,850
工事損失引当金	1,894,200	1,244,000
賞与引当金	602,803	614,667
その他の引当金	—	67,148
その他	719,813	654,482
流動負債合計	22,316,420	22,854,200
固定負債		
長期借入金	—	300,000
再評価に係る繰延税金負債	1,789,708	1,789,708
引当金	157,180	128,213
退職給付に係る負債	2,915,635	2,862,016
その他	382,293	341,727
固定負債合計	5,244,817	5,421,666
負債合計	27,561,237	28,275,866

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,000,000	3,000,000
資本剰余金	3,746,206	3,746,206
利益剰余金	12,992,682	13,921,593
自己株式	△230,292	△230,378
株主資本合計	19,508,596	20,437,421
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,535,110	1,337,602
土地再評価差額金	3,487,245	3,511,247
退職給付に係る調整累計額	△161,289	△148,891
その他の包括利益累計額合計	4,861,066	4,699,958
非支配株主持分	3,701,061	3,857,312
純資産合計	28,070,724	28,994,692
負債純資産合計	55,631,962	57,270,558

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
完成工事高	24,126,332	30,179,318
完成工事原価	20,649,355	26,165,524
完成工事総利益	3,476,977	4,013,793
販売費及び一般管理費	1,454,547	1,615,415
営業利益	2,022,429	2,398,378
営業外収益		
受取利息	1,027	1,087
受取配当金	70,168	73,433
受取賃貸料	15,004	15,615
スクラップ売却益	19,724	2,161
その他	5,248	15,491
営業外収益合計	111,173	107,790
営業外費用		
支払利息	10,299	11,028
前受金保証料	12,129	8,382
その他	1,370	3,033
営業外費用合計	23,799	22,445
経常利益	2,109,803	2,483,723
特別利益		
固定資産売却益	—	2,420
関係会社株式売却益	—	1,998
特別利益合計	—	4,418
特別損失		
固定資産除却損	21,099	47,287
減損損失	—	116,569
移転関連費用	—	67,875
その他	—	3,091
特別損失合計	21,099	234,823
税金等調整前四半期純利益	2,088,703	2,253,318
法人税、住民税及び事業税	592,904	539,463
法人税等調整額	△53,953	81,182
法人税等合計	538,951	620,646
四半期純利益	1,549,752	1,632,672
非支配株主に帰属する四半期純利益	175,808	271,413
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,373,944	1,361,259

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,549,752	1,632,672
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	247,636	△197,508
土地再評価差額金	—	24,002
退職給付に係る調整額	27,294	12,397
その他の包括利益合計	274,931	△161,108
四半期包括利益	1,824,684	1,471,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,649,514	1,199,157
非支配株主に係る四半期包括利益	175,169	272,407

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,088,703	2,253,318
減価償却費	283,714	295,899
減損損失	—	116,569
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△230,200	△650,200
受取利息及び受取配当金	△71,195	△74,521
支払利息	10,299	11,028
売上債権の増減額 (△は増加)	474,626	△1,750,914
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	361,018	201,490
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,094,767	1,002,549
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△946,814	△160,711
その他	△1,904,928	615,624
小計	△2,029,544	1,860,133
利息及び配当金の受取額	71,195	74,521
利息の支払額	△10,243	△10,928
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△935,118	△441,529
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,903,711	1,482,197
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△170,706	△875,589
その他	△24,046	△51,411
投資活動によるキャッシュ・フロー	△194,752	△927,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△30,000	850,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	—	△300,000
配当金の支払額	△270,197	△404,340
非支配株主への配当金の支払額	△101,725	△115,161
その他	△65,693	△42,502
財務活動によるキャッシュ・フロー	△467,616	287,996
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,566,080	843,192
現金及び現金同等物の期首残高	12,866,195	10,221,427
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,300,114	11,064,619

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	14,616,250	9,373,777	1,656	23,991,683	134,649	24,126,332
セグメント間の内部 売上高又は振替高	951,384	293,024	406,995	1,651,404	△1,651,404	—
計	15,567,634	9,666,801	408,651	25,643,087	△1,516,754	24,126,332
セグメント利益	1,622,416	395,353	337,952	2,355,722	△333,293	2,022,429

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、工事進行基準売上高の調整額及びセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、工事進行基準利益の調整額△5,437千円、セグメント間取引消去△257,155千円及び全社費用△70,699千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	19,385,296	10,833,024	1,540	30,219,861	△40,542	30,179,318
セグメント間の内部 売上高又は振替高	744,477	258,124	538,675	1,541,277	△1,541,277	—
計	20,129,774	11,091,148	540,216	31,761,139	△1,581,820	30,179,318
セグメント利益	1,708,141	708,572	470,763	2,887,476	△489,098	2,398,378

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、工事進行基準売上高の調整額及びセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、工事進行基準利益の調整額△7,858千円、セグメント間取引消去△411,786千円及び全社費用△69,453千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「宮地エンジニアリング」セグメントにおいて、遊休状態となった資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の当第2四半期連結累計期間における計上額は116,569千円であります。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況(連結)

① 生産の状況

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	14,554,286	61.6	19,353,957	64.7	32,311,625	62.9
エム・エムブリッジ	8,950,161	37.8	10,596,374	35.4	19,135,143	37.3
その他	1,656	0.0	1,540	0.0	2,365	0.0
調整額	134,649	0.6	△40,542	△0.1	△114,381	△0.2
合計	23,640,753	100.0	29,911,330	100.0	51,334,752	100.0

② 受注の状況

(受注高)

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	20,272,096	56.9	14,517,733	65.0	33,006,935	62.2
エム・エムブリッジ	15,378,550	43.1	7,805,047	35.0	20,018,760	37.8
その他	1,656	0.0	1,540	0.0	2,365	0.0
合計	35,652,303	100.0	22,324,322	100.0	53,028,060	100.0

(受注残高)

セグメントの名称	前第2四半期連結会計期間末 (2018年9月30日)		当第2四半期連結会計期間末 (2019年9月30日)		前連結会計年度末 (2019年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	58,530,702	62.6	48,528,287	64.6	53,395,850	64.4
エム・エムブリッジ	35,240,581	37.7	26,537,974	35.3	29,565,951	35.6
その他	—	—	—	—	—	—
調整額	△236,386	△0.3	53,187	0.1	12,644	0.0
合計	93,534,897	100.0	75,119,450	100.0	82,974,446	100.0

③ 販売の状況

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	14,616,250	60.6	19,385,296	64.2	32,485,940	62.4
エム・エムブリッジ	9,373,777	38.8	10,833,024	35.9	19,688,616	37.8
その他	1,656	0.0	1,540	0.0	2,365	0.0
調整額	134,649	0.6	△40,542	△0.1	△114,381	△0.2
合計	24,126,332	100.0	30,179,318	100.0	52,062,540	100.0